

## 「授業改善学生会議」

### － 持って来んしゃい授業改善案 －

梶間みどり（佐賀大学高等教育開発センター・講師）

佐賀大学高等教育開発センターでは、FD・SD活動の一貫として、学生からの授業改善案を募集した。全学部の学生を対象に、授業改善案を募ったところ、60編を超える応募があった。その中から5編の優秀作を選考した。

2004年12月8日（水）に開催したFD・SDフォーラムにおいて優秀作を執筆者に発表していただき、教職員と学生が共に授業改善について話し合う場を持った。このことは、「教育先導大学」を目指す佐賀大学の教職員が学生の言葉を真摯に受け止め、自らの授業及び日頃の職務を振り返る機会となった。と同時に、学生にとっても、授業の「受け手」という受け身的な姿勢から、自らも参加し、教職員と共に、授業や大学を作り上げていくという、意識改革の契機となったといえる。

本稿では、優秀作の概要を紹介するとともに、全応募作の概要をまとめた（資料3）。

#### （1）「佐賀環境フォーラム」の発展のために

（文化教育学部人間環境課程4年 松永阿由美）

私は、「佐賀環境フォーラム」の学生スタッフとして、大学教員のみならず、企業・行政・市民の方たちと交流してきた。このフォーラムは、文部科学省の「特色ある大学教育支援プロジェクト」に採択されている。また、学生は、このフォーラムに参加すれば主題科目「環境と生命」及び「環境と生命演習」の単位が取得できる。



「佐賀環境フォーラム」は、今夏に「打ち水」のイベントを実施し、テレビや新聞、雑誌にも紹介された。このように、全国的な注目を集めているにもかかわらず、意外なこと

に、佐賀大学の教職員にも、学生にも「佐賀環境フォーラム」はあまり知られていないのが現実である。これでは授業改善以前の問題である。なんとかして、フォーラムの存在をアピールしていかなくてはならない。そこで、以下の事項を提案する。

まず第1に、広報活動の充実である。見やすく、わかりやすいポスターを掲示したり、シラバスにフォーラムの内容をわかりやすく説明することである。第2に、履修方法の改善である。フォーラムに関連のある主題科目の履修をもっと容易にできるような工夫をお願いしたい。そして第3に、医学部の学生の履修を促進される工夫である。佐賀環境フォーラムには医療従事者に有用な情報が豊富である。医学部の学生が参加しやすくなるように、鍋島キャンパスから本庄キャンパスへの移動手段の充実や鍋島キャンパスへの出張を検討することを提案する。

## (2) 大学における専門科目授業の重要性

(経済学部経営・法律課程1年 小林達也)

自分の将来に役立つ勉強をするために佐賀大学に入学し、すでに半年以上が経った。この間に受けた授業を通して問題と思った事柄と、その対策を以下に述べる。

最も問題に思われるのは、専門科目の授業が少ないと思われる点である。佐大生の多くは進学校出身者なので、基礎簿記やマーケティングは初めてである。しかし、時間の都合から、授業ではそうした基本的なところをどんどん早く進めてしまうので、先に進むに従って授業がわからなくなるという悪循環が起こる。

こうした問題を解決するには、専門科目の担当教員のゼミ生をTA(ティーチング・アシスタント)として採用し、1年生からの質問に対応するようにすれば、授業理解度が格段に上がると思う。TAになったゼミ生は、1年生を教える責任を持たされるので、自らの授業理解度を上げるよう動機づけられるでしょうし、自信にもつながってくるのではないのでしょうか。

今は大卒という学歴だけでは就職できない時代である。これは僕たち学生が痛感していることである。だからこそ、簿記やシステム・アドミニストレータなどの資格をどんどん取得していきたいし、学生による互助的な教育・学習システムの立ち上げを強く希望する。



### (3) 主題科目のあり方について

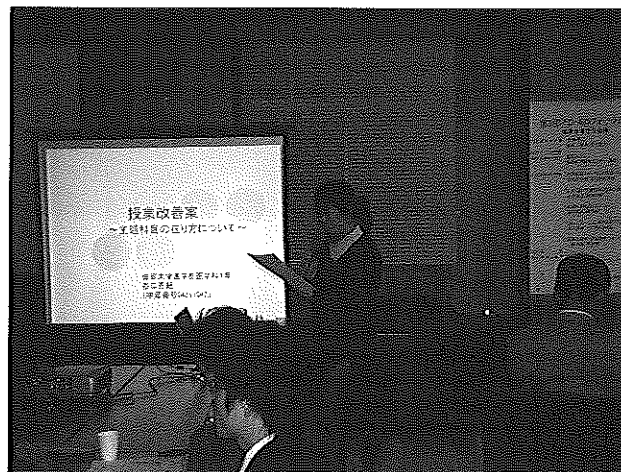
(医学部医学科1年 谷口真紀)

主題科目は自分の学びたい分野を選んで履修できる。一見、とてもいい制度のように思われるが、実際に受講してみるといろいろな問題が浮かんできた。

最も問題なのは授業の質である。ほとんどの授業は、専門科目の授業をそのまま専門外の学生にも理解できるよう、簡略化したようになっている。この簡略化がかえって説明不足をもたらすため、皮肉にも理解しにくいものになってしまう。学生が知りたいのは、専門分野の細部ではなく、たとえば事件が起こった時にその背景を推論できるといった、自分の生活に即した情報収集や情報処理の技術ではないか。少なくとも、専門分野の細部を取り上げられても、雑学的でまとまりを欠いた知識の習得にしかならないだろう。実際、学生は主題科目を単位取得のためだけに履修しているし、教員側もそれを知りながら見過ごしているようだ。

自由に選べる点にも問題がある。学生は自分の興味関心に合うかどうかや、単位取得が容易かどうかだけで、主題科目を選んでいる。自己決定能力の未熟な学生に自己選択を促しても、本質的なニーズに応じたことにはならない。なにより、現状では主題科目を自由に選ぶことができていない。

これらの問題を考慮すれば、主題科目の数を減らして他の科目がカバーする領域を広げ、広く浅く学ぶという、自学自習では案外むずかしい学際的な学習を可能にしてほしい。



### (4) 授業改善(案) - コミュニケーション能力を育むために -

(工学系研究科博士後期課程 荒川英孝)

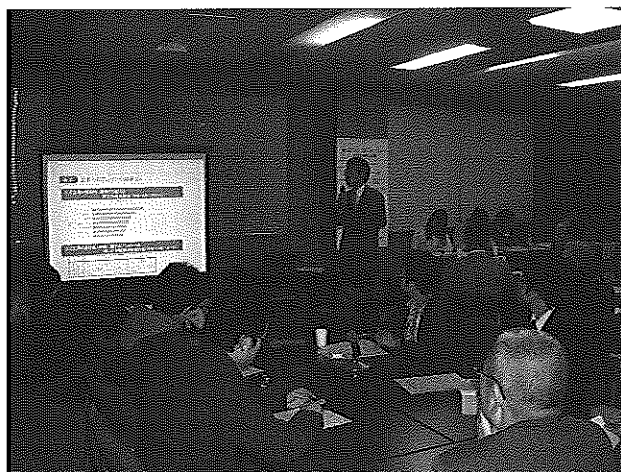
私はエネルギー関係の研究開発のために企業から派遣されてきているが、10年の勤務を通じて、コミュニケーション能力の重要性を感じている。就職活動や教育実習、上司との関わりや共同研究まで、コミュニケーションがうまくいかず、困った経験のある人は少なくないはずである。

雑誌や講義にあるコミュニケーション能力は、頭ではわかるのであるが、実際の場面ですぐに応用できるものではない。実践型の授業を通じて応用のしかたを学習し、世の中には多様な考え方があることを身をもって体験することが、コミュニケーション能力の育成にとって重要なのである。

今回は、次の授業改善案を提案いたします。

- ①コーチング技術を習得しているスタッフによる講義の進行
- ②心理学・臨床関係の教員を交えた実習形式での授業の進行
- ③全学部からの幅広い受講生の募集
- ④地域貢献推進室などを通じた地域住民のスポット参加
- ⑤就労生や卒業生へのインタビュー活動の実施

その成果として、学生は就職活動での質疑応答、教育実習での子ども理解が容易になるし、医療・看護場面や卒業論文研究の作成では周囲からいい刺激を受け取るようになることが予想される。これらは、決して一方通行の授業では達成できないものである。



#### (5) 授業改善案 —英語教育について—

(農学部応用生物科学科2年 山野尚美)

受験英語の勉強で身につけたボキャブラリー、イディオム、文法などの英語力は、4年生の段階でどれほど残っているのでしょうか？3・4年生になると英語の授業がないので、自分で勉強しないかぎり、確実に英語力を失うことでしょう。もちろんこれは、学生自身の責任でもあるが、英語力の低下をもたらしやすい構造は、大学として変えるべきであると思う。

英語力が就職活動や入職後のキャリア・アップに有利な資格になっているため、私の周りには自分で英語を勉強しようとしている人が多くいる。私も就職活動に有利になるくらいの英語力をつけるため、少しずつ勉強を始めたところである。しかし、効率のいい勉強方法、とりわけリスニングはどうすれば力がつくのかわからない。また、生協に英語の

教材が並んでいても、どれがどういいのか、迷ってしまう。

最近では、学生もアルバイトなどで時間に余裕がなくなっている。大学の授業で信頼できる教材と、その効率のいい活用法について情報提供してもらえれば、意欲のある人は早期から対策を立てやすくなるはずである。現在、LL教室で英語の勉強をできるようにはなっているが、ただ自習できる施設・設備をつくるだけでなく、学生の自学自習をしっかりサポートするしくみを、大学として提供してほしい。



# 「授業改善案」の概要

トピック	問題提議	提案事項
<p>【授業改善】 授業評価</p>	<p>・教員と学生の関わりが少ない。(少人数授業でも名前を覚えてもらえない) ・教員と学生のコミュニケーションが取れていない。学生の意見が授業改善に生かされていない。 ・学生はやる気がないし、やる気を持たせるような授業にもなっていない。 ・授業アンケートは学期末では遅すぎる。改善が次の学期になってしまいうから。</p>	<p>・教員も学生も積極的に関わる努力をする。 ・学生が受講している授業名と教員名、その授業についての不満や要望事項を書いた紙を入れる専用のポストを各教室棟や学生センターに設置する。その要望等に対する教員の返答は、直接あるいは、ホームページや掲示板などを活用して公表するシステムを導入する。 ・授業の最後に質問書を書かせ、それを評価の対象とする。 ・授業の様子をビデオに撮り、授業の進め方などを振り返る。 ・毎回の授業で授業の良くなかった点が改善されるようなシステムを作ってほしい。 ・授業評価は学期中に結果を取りまとめ公表し、受講している学期中に反映してほしい。 ・第3者による授業評価をする。</p>
シラバス	<p>・授業に計画性がなかったり、教えたい内容が不明確な教員がいる。意欲が見られない教員がいる。 ・シラバスの内容が短く、どのような内容なのかきちんとわからな い。 ・シラバスや学生便覧が使いづらく、その見方がわからず、履修登録で苦勞した。</p>	<p>・全教員が、計画性を持った授業をする(授業の進め方や理解してほしい部分を事前に示す)努力や工夫をしてほしい。 ・シラバスにもっと詳しい授業内容を掲載してほしい。たとえば、どのようなことに関連した授業なのか。進め方など。 ・また、シラバスに、教員のメールアドレスを記載してほしい。そうすると、質問や疑問をいつでも簡単に送ることができるから。 ・オンラインシラバスの発展と普及を図ってほしい。 ・発履の具体的な提案としては、取りたい資格を入力すると必要な科目名や情報が出てくる。横断機能や学年と学部を入力するとその年の授業の時間割と教室、教員名が表示される、登録や届け出が出来る機能などを追加してほしい。 ・普及の具体的な提案としては、大学入門科目の時間に、大学のホームページの紹介とオンラインシラバスの説明をしてほしい。 ・オンラインシラバスを充実させる。たとえば、動画などを取り入れる。 ・毎年シラバスを書き換える。 ・黒板を使った授業をしてほしい。黒板に重要点を書いて説明してほしい。</p>
授業方法	<p>・パワーポイントを使われると、進むのは早く、書き留める時間が少ない。 ・黒板の使い方を工夫してほしい。 ・黒板の文字をきれいにかいてほしい。 ・少人数制の授業を増やしてほしい。 ・大学の授業でもティーム・ティーチングを行う。1つの授業に複数の教員が参加をする。学生は班を作り、各班に1~2名の教員が張り付け、一人の教員が授業を進める。時折班活動を支え、各教員はその班活動を支援する。 ・私語をする人を注意しない教員が少なくない。 ・時間内に授業を終わってほしい。授業の延長は困る。 ・遅刻者への対応。1時間以上遅れた生徒と始めから授業にいた生徒を同じように出席として評価するのは納得がいかない。</p>	<p>・スクリーンとパソコンを活用するなどの工夫をしてほしい。 ・少人数制の授業を増やしてほしい。 ・大学の授業でもティーム・ティーチングを行う。1つの授業に複数の教員が参加をする。学生は班を作り、各班に1~2名の教員が張り付け、一人の教員が授業を進める。時折班活動を支え、各教員はその班活動を支援する。 ・私語をしている人はきちんと注意してほしい。 ・授業開始から30分経過して入室した学生には出席の紙を渡さないなど、遅刻者への対応をきちんとする。</p>

その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席をきちんと取ってほしい。そのために、各教員に専用端末(学内LAN機能を持った)を持たせ、学生証をスキャンすれば、自動的に集計されるシステムを作る。そうすれば、科目登録の手続きも簡単になると思う。</li> <li>・オンライン上で授業を管理する「Learning Management System」を導入する。</li> <li>・LMSとは、コンピュータとインターネット環境を利用し、学習の進捗状況、成績管理(レポート作成)、受講者管理、コンテンツの配信や管理、教材コースの作成、受講登録と管理を行うシステム。</li> <li>・単位認定の標準化を図ってほしい。</li> <li>・学生も教員を選びたい。そのためには、同じ科目でも複数の講師を用意してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が講義前にあらかじめ持っている基礎学力や技術に関する教員側の認識と学生の現実に差がある。</li> <li>・複数の科目を開講している教員とそれを受講している学生の、授業ごとの管理の煩雑さ、困難さ(レポートや履修カードの管理など)がある。</li> <li>・成績評価が、教員により異なるのは不公平である。</li> </ul>	
【授業内容】 英語教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学側の支援がほしい。具体的には、授業内での明確な情報提供(勉強方法、教材、TOEICなどの情報)、読む・聞く・話す・書くという総合的な英語教育の実施、質問等に無料で気軽に答えてくれる場(教室やホームページ)の設置。たとえば、LM教室の開放。</li> <li>・実用的で生きた英語を学ぶ機会を増やしてほしい。たとえば、ListeningやSpeakingを中心とした授業やネイティブの教員による授業など。</li> <li>・会話を主とした講義があってもいいと思う。</li> <li>・英語の履歴書の書き方など実践的な内容で、日本語を交えない授業などの工夫をしてほしい。</li> <li>・学生の興味関心に基づいた選択が出来る制度にしてほしい。たとえば、TOEICや英検対応の授業をするものを設置してほしい。</li> <li>・学力別のクラス分けをしてほしい。自分の理解できる授業を取ることによりやる気が出るから。</li> <li>・学生が担当の教員を選べるようにしてほしい。</li> <li>・学生が知りたいのは、幅広い意味での教養(雑学的なもの)であり、自分の生活にある程度即した情報、また情報獲得の手段である。たとえば、政治経済の授業であれば、経済ニュースを理解したい、事件が起こった背景を想像できるように講義してほしい。</li> <li>・主題科目の数を減らし、その代わりに各科目をカバーする領域を拡大する。</li> <li>・主題科目の専門の教員を配置する。</li> <li>・専門科目の授業を担当している教員のゼミの2、3年生がアシスタントという形で授業に参加し、1年生の質問に答えるなどのサポートをする。そうすることにより、1年生の理解も進むとともに、上級生も専門科目の理解を深め、自信を持つことが出来ると思う。</li> <li>・1、2年生への開講科目を拡大してほしい。同時に、3年生以上対象の講義にも1、2年生が参加できるようにしてほしい。</li> <li>・単位取得の制限を撤廃してほしい。1年次から多くの授業が履修できるようにしてほしい。</li> <li>・既修得講義の単位の認定。語学だけでなく、商業高校での簿記検定1級や2級の資格を認定するなど。</li> <li>・大学側のカリキュラムを見直し、単位互換の制度を充実させ、留學しても留年しないシステムをつくり、4年間で卒業できるようにしてほしい。</li> <li>・実践英語や資格取得につながる授業を増やしてほしい。</li> <li>・企業見学などの活動を授業でも取り入れてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育について、学年があがるにつれて授業時数が減少することにより、英語の能力が衰退している。</li> <li>・英文をただ読み、訳す授業が多い。</li> <li>・英文読解の講義が多すぎる。</li> <li>・語学の授業が文法事項の確認や文章読解になっていて、高校の授業の延長のようである。大学にふさわしい語学の授業をしてほしい。</li> </ul>	
主題科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題科目の内容が、専門の授業の内容をそのまま専門外の学生がわかるように易しく省略されたものになっているので、説明が中途半端に省略され、かえってわかりにくい。学生のニーズに合っていない。</li> <li>・主題科目が自由に選べない。抽選などではずれてしまっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目の内容が、専門の授業の内容をそのまま専門外の学生がわかるように易しく省略されたものになっているので、説明が中途半端に省略され、かえってわかりにくい。学生のニーズに合っていない。</li> <li>・主題科目が自由に選べない。抽選などではずれてしまっている。</li> </ul>	
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目にかける時間が少ない。基礎がわからなまま進んでいるようである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目にかける時間が少ない。基礎がわからなまま進んでいるようである。</li> </ul>	
履修制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年生への開講科目が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年生への開講科目が少ない。</li> </ul>	
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位取得の制限があり、学業への意欲が損なわれている。</li> <li>・留學すると留年してしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位取得の制限があり、学業への意欲が損なわれている。</li> <li>・留學すると留年してしまう。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な授業をしてほしい。</li> <li>・たとえば、「ゆつつら一と館」を活用し、学生が運営する店舗を開業する。経済学部の学生が経営を、建築学科の学生が内装を、情報学科の学生がITを活用したシステム開発を、など、各学部が連携した形で展開してはどうか。</li> <li>・コーディング技術を習得しているスタッフによる講義の進行</li> <li>・心理学、臨床関係の教員を交えた実習形式での授業の推進</li> <li>・全学部からの幅広い講義受講者の募集</li> <li>・地域貢献推進などを通じた地域の方々の一時的な参加</li> <li>・既に働いている方々や卒業生へのインタビュー活動の実施</li> <li>・学生が大学で行われている研究について知る講義（「佐賀大学で行われている研究について学ぶ講義」）を行う。全学部が持ち回りで担当する。そうすることにより、学生が教員や大学の事を知り、大学を社会にアピールしてくれるようになる。</li> <li>・見やすい、わかりやすいポスターを掲示するなど広報活動を充実させる。</li> <li>・シラバスに「佐賀環境フォーラム」の内容を記載する。</li> <li>・学生が授業を履修しやすいように、集中講義として登録できるようにする。</li> <li>・医学部の学生が履修しやすいように、通常の講義時間外にもハスを運行する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力が不足している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「佐賀環境フォーラム」について知らない学生、教職員が多い。内部へのアピールが不足している。</li> </ul>
【施設設備】	
情報関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LL教室やLM教室が活用されていない。</li> <li>・学術情報処理センターが活用されていない。</li> </ul>
図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書機の設置</li> <li>・利用時間の拡大（深夜0時までの開館、24時間の開館）</li> <li>・パソコン環境の整備（いすや照明の改善）</li> <li>・専門書だけでなく、小説など、学生が読みやすい本も置いてほしい。</li> <li>・お薦めの本や新着図書を紹介するコーナーを設けてほしい。</li> </ul>
【学生サービス】	
就職活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職相談室が入りにくい場所にある。</li> <li>・就職活動のやり方がわからない。そのための情報が入らない。相談する場所がない。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得のための講座を開講してほしい。</li> <li>・ポスターや掲示板などに大きく掲示する。</li> <li>・図書館にも情報を得られるコーナーを設ける。</li> <li>・教員と学生の信頼関係のためにも、休講の場合は、事前に連絡することや、休講届けを提出することを徹底してほしい。</li> <li>・学生や教員が誰でも利用できるフィットネス・クラブやスポーツ施設を作ってほしい。学生同士や教員と教員の交流の場となるし、空き時間や放課後に活用することも出来る。</li> <li>・敷地内の使用されていないスペースを全て駐車場にしてほしい。</li> </ul>



	<p>・ユニキッツや放課後学習ボランティアをしたくても、情報が入ってこないし、気づいたときには申込期限が過ぎているなど、広報活動が十分でない。</p>	<p>・ボランティアセンターの開設。</p>
<p>【キャンパス間交流】</p>	<p>・本庄キャンパスと鍋島キャンパス間のバスについて、本庄キャンパス学生は知らない。鍋島キャンパスへの行き方がわからなかった。鍋島キャンパスでの開講科目の受講をあきらめた。</p> <p>・本庄キャンパスと鍋島キャンパスの接点が少なすぎる。</p>	<p>・本庄と鍋島キャンパス間のバスを定期的に走らせ、キャンパス内にバス停を設置し、両方の学生が両方の授業を自由に受講できるようにする。</p> <p>・両方のキャンパスの学生が合同で受講する講義を開設する。あるいは、双方のキャンパスに行つて受けられる講義を開設する。特に、本庄キャンパスの学生が鍋島キャンパスで開講の授業を取られるような工夫をする。</p> <p>・ネットやテレビ電話を使つて、双方のキャンパスの講義を流し、意見交換や討論が出来るようにしてはどうか。</p>

(作成：梶間みどり)